

薬都とやまの シャクヤク(薬用)栽培 マニュアル

(2015年3月)



農林水産省

〔平成26年度薬用作物等地域特産作物産地確立支援事業〕

作成 富山型薬用作物生産協議会
協力 富山県

1 シャクヤクの概要

(1) 基礎知識

- ① 分類 ポタン科ポタン属の多年生植物
- ② 学名 *Paeonia lactiflora Pallas*
- ③ 生薬名 シャクヤク（生薬和名 芍薬）
- ④ 利用部位 根
- ⑤ 生薬成分 ペオニフロリン、アルビフロリン等のモノテルペングルコシド
- ⑥ 処方 主として漢方処方用薬であり、葛根湯、桂枝湯、桂枝茯苓丸、芍薬甘草湯、十全大補湯、小青竜湯、当帰芍薬散等に配合される。
- ⑦ 食薬区分 専ら医薬品（花は非医）
- ⑧ 栽培適地 低湿地や乾燥地を除けば寒暖いずれの地でも生育し、適応性は強いものの、元来寒冷地に自生する植物。やや冷涼で風通しがよく、日当たり良好、作土が深く、適度な排水性を有する土地を好む。

(2) 富山県で主に栽培されている品種と特性

- ① 品 種 **梵天**（青軸の白花品種）
- ② 特 性 病害虫に対して強健で、草丈が低く、倒伏しにくい。
莖数が多く太さは細く花は中生種の白色バラ咲き、中輪花で切花に不適
根は主根数が多く、長く、太さは中程度の増産種。
充実度が高く、乾燥歩留は45～50%。
ペオニフロリン含量は約2.5%、アルビフロリン含量は約0.7%前後。



図1 シャクヤク「梵天」の花



図2 シャクヤク「梵天」の掘取株

2 シャクヤクの生育と主な管理作業

栽培期間は4年を基本とするが、生育が悪い場合は5年とする。

根が収穫物であるため、掘取機を用いて株ごと掘り上げる。根はハサミ等を用いて株から切り取り、調整後出荷する。

出荷形態は、洗浄・乾燥後に出荷する“乾燥根”出荷と、土付のまま出荷する“生根”出荷があるが、本県では乾燥調製設備が普及していないことから、“生根”出荷が主流である。なお、根を切り取った後に残る株の部分は、次期栽培用苗として利用する。

表1 シャクヤクの生育と主な管理作業

＜肥料・農薬の分量は10aあたり＞

月	4	5	6	7	8	9	10	11
生育状況	 <p>萌芽</p>	 <p>新葉展開</p>	 <p>開花</p>	 <p>支根形成</p>	 <p>新芽形成</p>	 <p>細根発生</p>		
除草	● ● ● ● ● ● ● ● ● ●							
1年目	<p>病害防除(うどんこ病等)</p>	<p>病害防除(うどんこ病等)</p> <p>摘蕾</p> <p>根の肥大を促すため蕾を摘み取る ※1年目はほとんど蕾ができない</p>	<p>茎葉に付着した「うどんこ病」の原因菌が土壌に落ちるのを防ぐため、刈り取って処分する</p>		<p>追肥 (乾燥鶏糞 150 kg)</p> <p>茎葉の刈取り・処分</p> <p>チドリ植えの中心のマルチフィルムを破って施す</p>			
2~3年目	<p>病害防除(うどんこ病等)</p>	<p>病害防除(うどんこ病等)</p> <p>摘蕾</p>	<p>追肥</p> <p>化成肥料 40 kg (NPK各15%) 過磷酸石灰 20 kg</p>		<p>追肥</p> <p>茎葉の刈取り・処分</p> <p>乾燥鶏糞 300 kg 苦土石灰 100 kg ※3年目には苦土石灰は不要</p>			
4年目	<p>病害防除(うどんこ病等)</p>	<p>病害防除(うどんこ病等)</p> <p>摘蕾</p>	<p>追肥</p> <p>化成肥料 40 kg (NPK各15%) 過磷酸石灰 20 kg</p>		<p>収穫</p> <p>収穫時の地下部は、直径70cm 深さ30cm程度</p> <p>掘り取りには機械力が必要</p>			

管理作業の時期や回数は、ほ場条件や生育に合わせ、適切に行う。

上記の管理作業は、富山県薬用植物指導センター(※)における管理作業

(※所在地：上市町広野、土壌：黒ボク土、植付：2条植)

3 主な栽培管理

(1) ほ場準備

- サブソイラ等で心土破碎し、額縁排水溝を設置する等、排水対策を徹底する。
- 完熟堆肥又は発酵鶏糞、苦土石灰、過磷酸石灰を全面施用する。
- 畦立て

【1条植え：掘取機で収穫を行う場合】

畦幅 120～150cm程度（畦裾幅80～100cm）※

株間 30～50cm程度

畦高 20～30cm

※畦幅は使用するトラクタ・畦立機等の条件に合わせて設定する。

シャクヤク専用掘取機の掘取幅は約100cmである。

【2条植え：手作業で収穫を行う場合】

畦幅 140～170cm程度

株間 50cm

条間 30cm

畦高 20～30cm

- 除草対策として、厚さ0.03mmの黒マルチを掛ける。

(2) 苗の準備

通常株分けにより苗を確保する。

株分けは掘起こした頭根を1苗に3～5芽を付けるように分割する。

9月中旬～10月中旬に行い、10月中旬に植付ける。



図3 掘取株

親株1株から
約3～5株が調整



図4 株分け

※富山県内の農業者であれば、富山県薬用植物指導センターから苗を購入することができる。

〈譲渡価格：「梵天」500円/kg（平成27年3月現在）〉

(3) 植付け作業

- 9～10月であれば、植え付け時期が早いほどよく発根するので、苗が確保でき次第、速やかに植付ける。
- マルチに「植え穴」を開け、芽を上にして植付け、覆土を3cmほどする。

(4) 一般管理

- 排水対策：梅雨時や雪解け時などに水がほ場内に停滞しないよう、明渠等により排水を促す。
- 除草：植え穴の除草と、畦間の除草を年3～4回行う。
- 茎葉除去：病害虫の越冬を防ぐため、秋に地上部をすべて刈り払い、処分する。
- 摘蕾作業：根の成長(肥大)を促すため摘蕾作業を行う。
蕾がまだ小さい頃に手で摘み取るか、または全部のつぼみが上がった頃を見計らって鎌で刈り落とす。
- 追肥：土壌条件や生育に合わせ、年2回(6月、10月)～3回(3月、6月、10月)程度追肥を行う。



図5 摘蕾済みの茎



図6 茎葉除去後

【参考 富山県薬用植物指導センターにおける施肥体系】 ● ● ● ● ● ● ● ●

所在地：富山県上市町広野 土 壌：黒ボク土 植 付：2条植

① 基 肥

表3 元肥量

肥料名	施 肥 量 (kg/10a)	* 成分 (%)			3成分施用量 (kg/10a)		
		窒 素	リン酸	カ リ	窒 素	リン酸	カ リ
発 酵 鶏 糞	300	2~3	6~7	3~4	6~9	18~21	9~12
苦 土 石 灰	100						
過 燐 酸 石 灰	60		**14			**8.4	
施用量計					6~9	26.4~29.4	9~12

② 追 肥

表4 追肥量

年 目	肥 料 名	施 肥 量 (kg/10a)		* 成分 (%)			3成分施用量 (kg/10a)		
		6 月	10 月	窒 素	リン酸	カ リ	窒 素	リン酸	カ リ
1	発 酵 鶏 糞		150	2~3	6~7	3~4	3~4.5	9~10.5	4.5~6
2	発 酵 鶏 糞		300	2~3	6~7	3~4	6~9	18~21	9~12
	燐 加 安 15 号	40		15	**15	***15	6	**6	***6
	苦 土 石 灰		100						
	過 燐 酸 石 灰 (粉)	20			**14			**2.8	
3	発 酵 鶏 糞		300	2~3	6~7	3~4	6~9	18~21	9~12
	燐 加 安 15 号	40		15	**15	***15	6	**6	***6
	過 燐 酸 石 灰 (粉)	20			**14			**2.8	
4	燐 加 安 15 号	40		15	**15	***15	6	**6	***6
	過 燐 酸 石 灰 (粉)	20			**14			**2.8	
施 肥 量 計							33~ 40.5	71.4~ 78.9	40.5~ 48

* 全農とやま「取扱肥料品目一覧」より

** 可溶性リン酸

*** 水溶性カリ

施肥に際しては、栽培地域の土質や
土壌診断に基づいた施計が必要

(6) 調整(株割、根の出荷調整)

株をタガネ状のもので3~4個に分けて、根頭部から根をはずし出荷する。



図10 根の調整作業